



# みんなで作る よりよい教育・保育の ための羅針盤

具体的場面を通して、保育者等で語り合い、考えていくことが大切です。

園内研修事例を活用し、自園にあった内容で園内研修を行い、「子どもにとってよいこと」を、言葉と行動（教育・保育の実践）にしていきましょう。

この資料は、市乳幼児教育・保育支援センターをとおして、随時更新していきます。



市ガイドライン及びみんなで作る羅針盤の中のイラストは、市内保育園保育士の方のオリジナルのイラストです。

# こどもの視点で自分に問いかけてみましょう

## <言葉かけ>

あなたの声や言葉、  
優しく響いていますか？



## <行動>

どんな気持ちでこどもと  
手をつなぎますか？



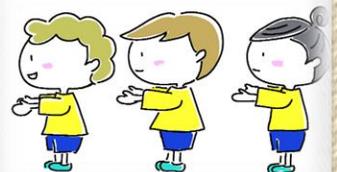
## <こどもの環境>

こどもが遊びを選べる環境  
に心がけていますか？  
こどもが「できた」を  
感じられる環境になっ  
ていますか？

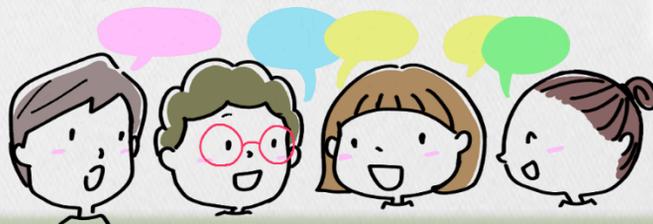


## <生活面>

「こうあるべき」に  
とらわれすぎていませんか？



そして…



## <保育者等として>

迷ったとき、立ち返る場所（ところ）はあり  
ますか？

こども一人一人の「自分づくりの道筋」を  
確認する時間を作りましょう。そして、同僚  
の誰かと共有していますか？

●園内研修で活用資料

(ガイドライン検討会にて作成) P1～P8



子どもたちと過ごしている中で、「こんな場面あるよね」という事例を羅針盤としてあげました。

## 羅針盤の見方・活用法

一日の生活を場面ごとに分けてあります。



〇〇の場面で

年齢	気を付けたいかかわり	よりよいかかわり
3 3.4.5歳児	散歩に出かける前にトイレに行くように伝えたが、「行かない」と嫌がることに対して「トイレに行かないとお散歩に行けないよ」と言葉をかける。	見通しを立てることや気持ちの切り替えが苦手でトイレを嫌がるようなケースでは遊び・片付け・トイレ・散歩等の行動予定を絵で示したり、タイマー時計で切り替えを促してトイレに誘うのもよいでしょう。自ら尿意に気づいた時トイレに行くようにトレーニングをしているケースでは、出かける前のトイレは無理強いせず「おしっこしたくなったら教えてね」と声掛けして出掛けましょう。着替えを多めに用意したりトイレの場所を調べるなどの準備で対応しましょう。

どの**行動や言動**が気を付けたいかかわりなのかな？  
類似したかかわりはなかったかな？というところを考えていけるといいですね。

よく見られる年齢としてあげてありますが、一人一人発達に違いがありますので、目安として捉えてください。

よりよいかかわりの**一例**としてあげてあります。行動の背景や子どもの様子、年齢などいろいろな視点から、かかわり方や配慮（環境構成）をみんなで話し合しましょう。

Point

子どもたちと過ごす中で、「これって子どもにとってよかったのかな？」と悩み、迷うこともたくさんありますね。この羅針盤を、子どもの権利を保障する教育・保育を考えるためのきっかけとして、また、様々な角度から保育の振り返るツールとして園内でご活用ください。



# 食事の場面で

	年齢	気を付けたいかかわり	よりよいかかわり
1	0.1.2歳児	食事の際に眠くなるこどもに対して、一緒に歩いてみたり手洗い場で手を洗うなどして、目を覚ませようとする。	クラスの職員と給食の職員と連携し、他児より早めに食事を出してもらったり、食事前に眠くなったこどもについては、目覚めてから食べられるものを用意してもらったりしましょう。
2	0.1歳児	どの食べ物に限らず、こどもの意思を尊重せず、保育者等が食べる順番を決める。「ご飯を先に食べて」「デザートは一番最後ね」など	「何でも、全部食べてほしい」と思いがちになりますが、こどもが食べる意欲を尊重することが大切です。「おいしいね」「これはどんな味かな?」と言葉をかけながら、こどもが自らの意思で食べ物に目を向けて食べようとするのを支えていきましょう。
3	0.1.2歳児	食べやすくしようと思ってこどもに確認せずに勝手に食材を混ぜてしまうことがある。	いいにおい、おいしそうな見た目、触ったことがある食材など、こどもが五感で興味をもつことも大切です。一人一人の食感の好みを把握しつつ、こどもの「食べたい」「おいしい」など肯定的な気持ちを促しながら進めていきましょう。
4	3.4.5歳児	少食の子に対して、こどもの意見を聞かずに初めから非常に量を少なくして配膳する。	食べることができる量をこどもに問いかけてみましょう。「どのくらい食べれる?」「これは少なくしようか?」「〇〇は全部食べてみる?」
5	3.4.5歳児	なかなか自分で食べようとしないうこどもに「小さい子のクラスで食べさせてもらう?」と言葉をかける。	保育者等の感情や都合を押しつせず、「もう少し食べる?」「先生と一緒に食べる?」「もう、おしまいにしようか?」など、共感的に応答してみましょう。
6	3.4.5歳児	「お部屋に入らないとご飯が食べられないよ」「手を洗わないとおやつが食べられないよ」と、否定的な言葉をかける。	「〇〇しないなら〇〇できない」と行動を強要するかかわりではなく、「おいしい給食があるからお部屋に入ろう」「きれいな手になったらおやつを食べようね」と、肯定的な言葉がけをして、こどものやる気を育てていきましょう。

## ～こどもの気持ち:「こんな気持ちだったかも」～

1. 眠いときに寝かせてほしいなあ。

3. 食べる前に混ぜないでほしいな。

4. 食べたい量は自分で決めるよ。野菜は全部食べられないけど、ご飯のおかわりはほしいな。

5. 「残してもいいよ」と言ってほしいな。

2. 好きな物から食べたいなあ。



6. ご飯の時間になっても、まだ遊びたいな。



## 排泄の場面で

	年齢	気を付けたいかわり	よりよいかかわり
1	2歳児	トイレが混み合っていると「〇〇ちゃん、終わったら代わってね。もう出ないでしょ」と言葉をかける。	「〇〇ちゃん、うんち、おしっこできたかな？」と排泄の有無を確認する言葉をかけてから、「お友達待ってるから、終わったら出てきてね」と混み合っていることを伝えましょう。 「もうちょっとがんばる!」と意欲を見せたときは、しばらく側で見守りましょう。
2	全年齢	便のにおいがした時、「何か臭くない」と大きな声で言う。	においに気付いた時には、そっと確認した後に、「きれいにしようね」「ウンチでてよかったね」と言葉をかけながら、おむつを交換したり、着替えをしたりしましょう。
3	3.4.5歳児	散歩に出かける前にトイレに行くように伝えたが、「行かない」と嫌がることにも対して「トイレに行かないとお散歩に行けないよ」と言葉をかける。	見通しを立てることや気持ちの切り替えが苦手なトイレを嫌がるようなケースでは 遊び・片付け・トイレ・散歩 等の行動予定を絵で示したり、タイマー時計で切り替えを促したりしてトイレに誘うのもよいでしょう。自ら尿意に気づいた時トイレに行くようにトレーニングをしているケースでは、出かける前のトイレは無理強いせず「おしっこしたくなったら教えてね」と声掛けして出掛けましょう。着替えを多めに用意したりトイレの場所を調べたりするなどの準備で対応しましょう。
4	3.4.5歳児	「おとこのこは立っておしっこしてください」と命令口調で言う。	小便器のない家庭も増えているので、保育者等には小学校に行くまでに園では立ってできるようと焦りがあるかもしれません。「男の子はお兄ちゃんのトイレに行ってもいいよ」と、どちらでするか選べるような言葉かけをしていきましょう。
5	3.4.5歳児	食事中にトイレに行きたいと訴えたことにも対して、「えっ!?!さっき行かなかったの?」と言って、すぐに行かせない。	その子の排尿間隔や体調などこどもを理解した上で個別にかかりましょう。「食事の途中だから、トイレが済んだらすぐに戻ってきてね」と見届けましょう。 「食事前に行けるとよかったね」と、食事のマナーについても知らせていきましょう。

### ～こどもの気持ち:「こんな気持ちだったかも」～

1. もう少しでそんな気がするんだけど…。慌てさせないで。

2. 友達の前で、あんまり言ってほしくないな。

4. お家では座ってしてるんだけどなあ。



5. さっきはしかなかったんだ。だけど、今は行きたくなかったんだけどなあ。



# 着脱の場面で

	年齢	気を付けたいかかわり	よりよいかかわり
1	1.2歳児	自分でズボンや靴を履こうとしているこどもに、待ちきれず思わず「できないのなら、してあげるね」と手を出す。	こどもの動きは大人から見ると「時間がかかっているな」と映るかもしれませんが、少し待ってこどもの様子を見ているとその子なりに考えて「やろう」としていることに気づきます。手を貸すときには「お手伝いしようか?」と尋ねてからにしましょう。
2	3.4.5歳児	「着替ええないならこの服もらいます」「早く着替えないと給食食べられないよ」と強い口調で言う。	途中で投げ出してふざけているように見えるとき、本当は困難の乗り越え方がわからないだけなのかもしれません。「どこが難しいのかな?」と躓いている箇所を確認したり、「このボタンは自分で留められるかな」とスモールステップを与える言葉かけが良いですね。どうしても急ぐときには状況を説明した上で「手伝ってもいい?」と確認して援助するのも良いでしょう。
3	3.4.5歳児	着替えに時間がかかる子に対して、「もうみんな着替えたよ。おいていくよ。」と声をかけ、 <u>そのまま</u> しておく。	早い遅い、できるできない、で評価せず、こども一人一人のタイミング、ペースに配慮しながらその子に必要な手助けを確認した言葉をかけてみましょう。「一つだけボタン留めるからあとは自分でやってみよう」「どっちが前か一緒に考えようか」「手伝ってもいい?」と少しハードルを下げてみたり、「かっこいい服だね」「ここまでできたね」などど「やってみたい」という気持ちを育てたりしていきましょう。
4	3.4.5歳児	水遊び、プール遊び等一斉で着替える際、全裸の姿が他児に見える。または男女一緒に着替える。	室内のスペースを区切り、プライバシーが保てるような環境を整える。(衝立などを準備する)

## ～こどもの気持ち:「こんな気持ちだったかも」～

1. ちょっと難しいことでもやってみたいな。

3. 困っている時、うまくできないとき、優しく教えてほしいな。友達とはくらべないでほしいな。

2. 怖い顔にびっくりするよ。



4. ちょっと、恥ずかしいなど思う気持ちに気づいてよ。



## 午睡の場面で

	年齢	気を付けたいかわり	よりよいかかわり
1	2歳児	午睡をせずに動いているこどもに「寝ないとオバケ来るよ」と言う。	怖がるような言葉をかけるのではなく、「眠くないんだね」「お布団が嫌なの」「起きたらまた遊ぼうね」など共感的な言葉をかけながら安心感がもてるようにしましょう。 抱っこや背中をさする、体や足のマッサージも効果的かもしれませんね。
2	3.4.5歳児	午睡時に話していたり、布団の上でふざけたりするこどもの布団を、他児から少し離れたところに敷く。	午睡中騒ぐと友達の迷惑であること、身体を休めることは大切なことであることを伝え、こどもが納得して行動できるようにしましょう。 「大きな声を出すとお友達が眠れないよ」「寝ると元気が出るよ」「起きたらおいしいおやつが待ってるよ」などと声をかけ、そばで一緒に過ごすようにしましょう。

～こどもの気持ち:「こんな気持ちだったかも」～

1.〇〇先生と一緒に寝たいんだ。

2.もっとあそびたいよ。

1.いろんな音が気になって眠れないんだ。





## 遊びの場面で

	年齢	気を付けたいかわり	よりよいかかわり
1	0歳児	何にでも興味をもって触ってみようとするこどもに、「ダメ」「触っちゃダメ」と声をかけ、行動を止める。	探索活動が盛んになり、何でも手にとって確認しようとする時期であることから、安全で様々な感触が楽しめる玩具を用意しておくが良いですね。危険性のある物は手の届かないところに置いておきましょう。
2	1.2歳児	何でも「ヤダ」「しない」と言うこどもに、「ヤダじゃないよ」「〇〇しましょう」と保育者等の思い通りにする。	自我の芽生え・自我の拡大の表れであり、発達の過程と捉えていきましょう。「〇〇で遊ぶ?」「〇〇がいいかな?」「じゃあ、〇〇にしようか?」など、こどもが選択できるような言葉がけに心掛けましょう。
3	0.1.2.3歳児	噛みつきや引っかきを止めようとして、強く手を引っ張る。	驚かせずに努めて冷静に、こどもの間に体を入れるなどして未然に防げると良いですね。「〇〇だったのかな」「一緒に〇〇してみようか」など、気持ちに寄り添う言葉がけをしていきましょう。
4	3.4.5歳児	「〇〇を片付けできないなら、〇〇もらおうかな」と言って片付けを促す。	「あった場所に戻そう」「絵のあるところにしまおう」など、イメージが湧くように伝えていきましょう。また、こどもなりに片付けている様子を認め、「ありがとう」「助かるよ」と感謝も伝えていきましょう。
5	3.4.5歳児	集団活動の参加を嫌がる子や、活動の切り替えが難しい子に対して「〇〇しないと〇〇できないよ」と否定的な声かけをする。	「どうしてもしたくないの?」と思いを聴き取り、まずは受け止めましょう。「やりたくなったらおいで」と無理強いせず待ったり、「〇〇したら〇〇だよ」と楽しみに待てるよう肯定的な声かけをしたりしていきましょう。

### ～こどもの気持ち:「こんな気持ちだったかも」～

1. 何でも触りたいな、何でも舐めたいな、行きたいところに行きたいな。

3. 気持ちを代わりに言ってほしいな。

2. やりたくない時もあるよ。



5. 気持ちを聞いて、「そうだったんだね」と受け止めてほしいな。



# 登降園の場面で

	年齢	気を付けたいかかわり	よりよいかかわり
1	全年齢	母親と離れたくなく泣いたり、めそめそしたりするこどもを無理に離そうとしたり、背後から急に抱きかかえて連れて行く。	無理強いせず、「お母さんに抱っこされてうれしいね」「先生、抱っこしてもいい?」「〇〇ちゃんの好きなおもちゃで遊ぼうか」等と、こどもの気持ちに寄り添うような言葉をかけましょう。
2	全年齢	他のこどもの前で大きな声で注意したり、こどもや保護者を否定するような話をこどもの前で職員同士が話す。	保育者等の言葉も人的環境の一つです。こどもの成長に大きな影響を与えます。きれいな言葉を耳にする保育室にしていきましょう。
3	全年齢	いつも時間ぎりぎりのお迎えになるこどもに対して、「〇〇ちゃんのお母さん、今日も遅いね」と言う。	「〇〇ちゃんのお母さん、ちゃんとお迎え来てくれるよ。一緒に待っていようね」とこどもの気持ちに寄り添い、安心してお迎えを待つことができるようにしましょう。

## ～こどもの気持ち:「こんな気持ちだったかも」～

1. 泣いている時は優しく抱っこしてほしいな。

2. 先生の優しい声、やさしい笑顔が好きなんだけどな。



3. お迎えが遅くて寂しいのは私なんだけど。

# 【セルフチェックシート】



## ★チェックシートの活用法★

- ① 保育を振り返り「このかかわりどうだったかな?」と思った気を付けたいかかわりをあげてみましょう。
- ② ①であげたかかわりについて「こうするとよかったかな」と、よりよいかかわりについて考えてみましょう。
- ③ よりよいかかわりができているよ!という項目をチェックしてみよう!

	年齢	気を付けたいかかわり	より良いかかわり	チェック欄 (できている)	
				月 日	月 日
1				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

◇自己チェックだけでなく、様々な形で活用し、チェックする時期や回数等、各園で話し合いながら取り組んでください。チェックすることで「気づき」につなげ、職場で話し合いながら、職員間の共通理解や研鑽を深めるきっかけにしてください。

● 「園内研修事例 ～私の園のひと工夫～

- ① 「保育所・認定こども園等における人権擁護のためのセルフチェックリスト（全国保育士会）等の活用して P9～P10



ご提供いただいた園の皆様に、深く感謝申し上げます。

## 1. 演習のねらい

「こどもの人権擁護」の視点から、セルフチェックリストを活用し、自らの保育を振り返る機会とする。チェックリストを記入後、自らの保育を具体化するなど継続して研修を行うことで、「こどもにとってどうだっただろうか?」という気づきにつなげていく。

## 2. 「セルフチェックリストに記入」

- ①各自でセルフチェックリストを記入する。
- ②チェックがついたカテゴリーについて、実際に行ってしまった行動、かかわりを具体的に書き出してみる。
- ③②についての改善点、具体的な言葉かけ、環境の工夫について考えてみる。
- ④各自のシートを持ち寄り、職員間で話し合う。

(一部抜粋)

カテゴリー	「良くない」と考えられるかかわり	改善点【こどもに関わる時の態度】	言葉かけの例・環境の工夫
(3)-B	子どもの人数チェックをする際、こどもの頭をポンポンと手で押さえるようにして数える。	頭を押さえられて乱暴に感じる子もいるので、一人一人の顔を見ながら丁寧にしかかわる。	肩に手を置いたり、顔を見たりしながら、丁寧にしかかわる。
(1)-C	排泄を失敗した子どもに対して、即座に「でちゃったね」と声をかけてしまった。	こどもが失敗してしまったと傷つかないように、また、恥ずかしい思いをしないように配慮する。	「大丈夫だよ」「着替えようか」と静かに声をかけ、人目の付かない所で着替えることができるようにする。
(4)-F	持ち物に名前の記入がなかった時に、「いつも忘れて困るわね」と、子どもの前で言う。	保護者を否定されることは、こどもにとっても否定されていると感じるので、こどもの前で否定的な言葉は使わない。	「お母さん、忙しくて、忘れちゃったのかな」

## 3. 演習後の気づき

### ○参加者から

・保育の中での行動を具体的に挙げることで、「このかかわりのここがこどもの気持ちを寄り添ってなかったのかな?」「もし自分がされたら嫌だよね」というところが見えてきて、そこが「こどもの人権を尊重する」ということなのだ気づくことができた。

### ○主催者から

・同じチェックリストを活用し繰り返し研修を行うことで、一つ一つの行動について、職員が深く考える機会となった。カテゴリーを意識することで、自分の保育の傾向に気づく職員もいた。こういった話し合いを続けていき、「今のかかわりはどうかな?」ということを職員同士が声に挙げながら、保育力の向上へとつなげていきたい。



## 演習事例2.

「ふりかえりシートを活用し自己の保育を振り返ってみよう」

～子どもにかけた言葉・かかわりは大丈夫だったかな？～

### 1. 演習のねらい

毎年園内研修において、チェックリストを用いながら人権研修を行っている。

「子どもを尊重する」ことや「子どもの人権擁護」について改めて職員の意識を高め、不適切な保育を行っていないか自らの保育を振り返るために、ふりかえりシートを活用して自己点検を行った。

### 2. 「ふりかえりシートの活用」

ふりかえり(状況・気づき等)を各自記入し、グループ討議の中で検討をした。

(一部抜粋)

場面	適切ではないかかわり	ポイントとアドバイス	ふりかえり (状況・気づき等)
クラス活動	子どもの名前を呼び捨てやあだ名で呼んでいませんか？	名前は子ども自身です。親しみをもつためのものであっても、呼び捨てやあだ名で呼ばず、きちんと敬称をつけて呼びましょう。	職員間で伝え合う時間、書類を見ながらなどの場合は呼び捨てもあったかな。日中は気を付けている。
	泣いたり困っている子どもを、そのままにいませんか。	どうして泣いているのか、何に困っているのか等理由を考えてみましょう。そして、子どもに合った対応を考えましょう。	一声かけるようにしているが、心の声は表情に出てしまっているかも…。
	子どもの身体や服装について、子どもを無意識に傷つけていませんか？	体型や、着ている服の色やデザインなど保育者の何気ない言葉で傷つくことがあります。家庭の事情も考慮しましょう。	「大きい服」「この模様みているとチカチカする」「洋服小さいんじゃない」など無意識に言葉にしてしまうことがある。
	子ども達の前で家庭状況等、個人情報がかかることを話していませんか？	子ども達の前であっても、守秘義務を守りましょう。	伝達事項として、子どもの前で話してしまったことがある。

### 3. 演習後の気づき



#### ○参加者から

- ・普段何気なく行っている行為が、子どもにとっては傷ついたり、あまりうれしくなかったりすることがあるということに気づくことができた。
- ・子どもの行動の背景を考えながら、言葉をかけたりかかわったりすることが大切だと感じたので実践していきたい。
- ・シートを記入しながら、「子どもを尊重する保育」を改めて考えさせられた。かかわり方で悩んでいることが、みんな話すと少し楽になった。

#### ○主催者から

- ・「ふりかえりシート」を活用することで、「この項目通りではないけど、近いことはあった」など、早期に気づきを得ることができた。その気づきが、「今の言葉かけどうだったかな?」「もし、自分がされたら、どんな気持ちになるだろうか」と立ち止まって考えることへとつながっていくのではないかと思う。今後も「ふりかえりシート」を活用しながら、具体例を挙げる中で「子どもにとってよいこと」を職員全員で考えていきたい。

- 「園内研修事例 ～私の園のひと工夫～  
②よりよい保育のため、園内の同僚性を推進  
する演習事例 P11～P13



ご提供いただいた園の皆様に、深く感謝申し上げます。

# 園内研修 『不適切な保育ってどうしておこるの?』

## 【研修の目的】

教育・保育の仕事は、感情労働だということをよく耳にします。また、現在は不適切な保育が行われると、当事者となった保育者個人が責任を問われます。しかし、保育者といえども一人の人間です。感情のコントロールがうまくできないときもあれば、忙しすぎて周囲が見えなくなるときもあると思います。

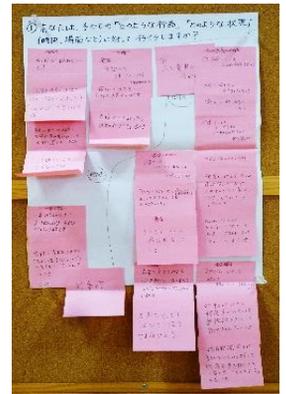
そこで、保育者が自身の行動や感情を振り返ると同時に、それを職場内で共有することによって、何か良い解決策を導き出せないかと思い、研修を企画しました。

## 【研修の方法】

1. 以下の内容について、一人一人の保育者が付箋に記入する。(付箋の色は項目ごとに分ける)
  - ①あなたは、「こどものどのような行為」「どのような状況」(時間、場所など) に対してイライラしますか?
  - ②理性を失うような場面は、どうして起きると思いますか?
  - ③そのような場面・状況をどうやって切り抜けていますか?(どうしたらいいと思いますか?)
2. グループに分かれる。(グループの人数は4, 5人にする)
3. ①について、それぞれが書いた付箋について発表した後、自分たちで考えたカテゴリーに分ける。

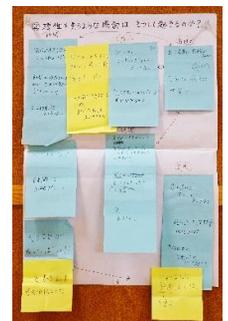
例) [時間] → 片付けの時  
→ 午睡の時  
→ 一斉の話の時

[保育者の見取り] → 人に迷惑をかける行為をしている  
(自分勝手な行動をしている)  
→ 泣いて思いを通そうとする  
→ 暴言を言う



4. ②について、それぞれが書いた付箋について発表した後、自分たちで考えたカテゴリーに分ける。

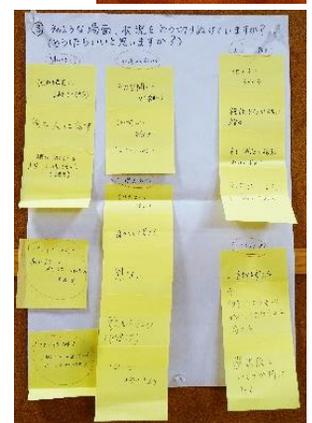
例) [時間に追われている] [保育者の体調不良]  
[保育者の価値観] [保育者の気持ちの余裕]  
[予定していたことができない]



5. ③について、それぞれが書いた付箋について発表した後、自分たちで考えたカテゴリーに分ける。

また、②のカテゴリーの解決策になりそうなものは②のカテゴリーの中に貼る。

例) [同僚や他の人に話を聞いてもらう]  
[そのことから気持ちを逸らす]  
[その場から離れる] [予定を切り替える]  
[同僚や他の人に頼る]





# 保育の中でのあるある一場面・・・こんな時どう対応しますか？ みんなで話し合ってみませんか？

## 〈事例1〉

給食が始まってしばらくすると、Aちゃんが「ごちそうさま」と席を立とうとしました。保育者はおかずがほぼ残っていることに気づき、「あれ？もうおなかいっぱい？もう食べないの？」と声をかけました。Aちゃんは「うん、もういらぬ」と遊びだしました。そこで保育者は「食べないと大きくなれないよ。ちゃんと最後まで食べなさい」と声をかけました。



- ・Aちゃんはどんな気持ちだったのかな？
- ・保育者等の言葉がけにはどんな思いがあったのかな？



## 〈事例2〉

もうすぐ運動会。オープニングで踊りを披露することになりましたが、A児はあまり好きではなく、みんなと一緒にしようとしません。一方B児は、リズムに合わせて身体を動かすことが大好きで、いつもニコニコ笑いながら踊っています。保育者は「Bちゃんとっても楽しそうで、お顔もニコニコしてるね。みんなでBちゃんの真似っこしてみよう」と誘いましたが、A児は少し離れたところから見っていました。保育者は、A児に「どうしたの？Bちゃんみたいにやってみたら？」と声をかけたが、A児は気が進まない様子だったので、さらに保育者は「Bちゃん、かっこいいね。Aちゃんも教えてもらおう？」と声をかけた。



- ・「Bちゃんみたいに・・・」という表現は、A児にとってはどうなのかな？
- ・保育者等の言葉がけにはどんな思いがあったのかな？

● 「園内研修事例 ～私の園のひと工夫～

③ペアレント・プログラムをつかって

P14～P16



ご提供いただいた園の皆様に、深く感謝申し上げます。



## 2 「ほめる」を意識して子どもと関わりその実践を持ち寄る

### ★出し合った意見や気付き★

- 全部できるまで待たずに、少し行動に移そうとした時にほめる
- 何がいいことかわかるように具体的にほめるとよい
- 笑顔でオーバーアクションでほめると喜ぶ
- その場でほめると、ものすごくうれしそうな表情になる
- あまり大げさにほめると、行動が止まってしまうことがあった
- やっぱりむずかしかった

### グランドルール 発表を聞いた後は、拍手でほめよう！



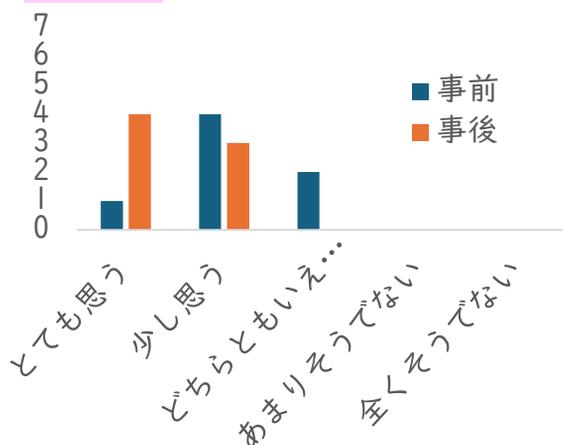
「ほめられるの、  
久しぶり…かも？」

「ほめられると、  
うれしい！」

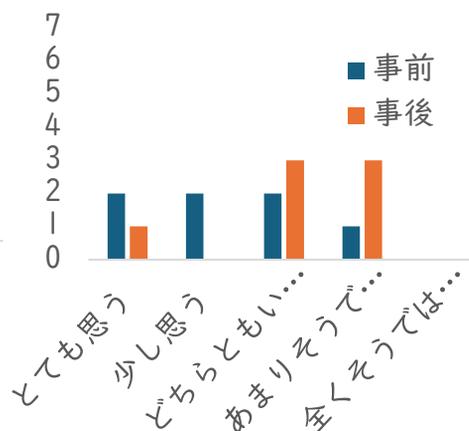
「お母さんや、子ども達も、ほめられると、  
こんな気持ちなんだろうな」

### 【研修後の意識調査】

子どものいいところをあげることができますか？



子どもの困った行動が気になり注意をさせていただきますか？



#### ▶ 結果

保育者が、子どものいいところに目が向くようになり、行動に対して肯定的な見方ができるようになってきた。

## 【職員感想より】

- ・ こどもに対するかかわり方が自分の保育の中で変わった。こどもにも変化が見られるようになった。変化が見られるとうれしく、保育が楽しくなってくる。
- ・ 「ほめる」ことを意識することで、こどもの笑顔が増え、こどもとの関係が柔らかくなったような気がする。
- ・ 行動で捉えることで、次への支援（個別支援計画）が立てやすくなった。
- ・ 保護者の不安や心配、ネガティブな気持ちを少しでも和らげ、子育てができるように話ができるようになりたいと思った。保護者と一緒に考えていくという意識が変わった。

## 【まとめと課題】

- ・ ペアレントプログラムを活用しながら、こどもの行動を捉え、職員間で話し合ったり、演習を行ったりすることで、こども理解への学びを深めることができた。
- ・ 学んだことを日々の保育や保護者との関わりの中で実践しようと、職員の行動や意識に変化が見られた。
- ・ 研修で得た知識や技術を自分達の保育に位置づけ、自分達の保育として構築していくためには日々の保育の中で継続的に取り組んでいくことと、保育士一人一人が実感できる工夫が必要だと感じた。
- ・ 園内研修の取組を保護者支援につながるよう発信や、保育参加等で保護者ともワークをする機会を作っていきたい。



ペアレント・プログラムについて詳しく知りたい方は、お問い合わせください。

- ・ 越前市乳幼児教育・保育支援センターこのみらい  
TEL 0778-22-0456
- ・ 越前市児童発達支援センターなないろ（市こども家庭センター）  
TEL 0778-22-3628
- ・ 福井県発達障がい者支援センター スクラム福井  
TEL 0776-22-0370



なないろが開催した資格者養成講座（6回コース）の様子